（令和元年度）

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙 台 市 広 瀬 図 書 館
2	指定管理者	丸善雄松堂 株式会社
3	指定期間	平成28年４月１日～令和３年３月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 令和元年度：124,099人団体〔個人：123,598人、団体・文庫：501団体〕（前年度比100.2%） 平成30年度：123,852人団体〔個人：123,314人、団体・文庫：538団体〕 平成29年度：111,176人団体〔個人：110,608人、団体・文庫：568団体〕 《事業》 仙台市広瀬図書館の運営管理
5	収支の状況	《費用》 （　)は前年度決算額 ・　指定管理者に支払った費用　54,757千円　(53,700千円） ・　その他市が負担した費用　8,880千円　(8,822千円） 《収入》 ・　使用料収入　0千円　(　0千円） ・　その他収入　26千円　(　24千円）
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート　実施期間：令和元年12月8日（日）～21日（土） 利用者懇談会　開催日：令和2年2月6日（木）

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野		所見	評価
Ⅰ	総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された，施設運営上の基本方針に基づき管理運営されている。全館共通の業務や行事も適切に行われており，サービスの質の向上や利用促進のための取り組みもなされている。	24/24
Ⅱ	施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況，また，施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり，指定管理料も適正に執行されている。個人情報の取り扱いや情報システムのセキュリティ対策についても徹底している。災害発生時の訓練も関係機関と合同で適切に実施されている。事故防止のチェックリストに基づき館内を巡視するとともに，事故や苦情等の処理報告書を榴岡図書館との間で相互に共有し，ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。	30/30
Ⅲ	施設・設備の維持管理	建物，設備及び備品は適切に管理されている。また，広瀬文化センター全体として組織するごみ減量委員会に参加し，ごみ減量に取り組むとともに，利用者を巻き込んだ取り組みとして不要になったエコバッグ等を必要とする人に受け渡すことができるカゴを館内に設置するなど，環境へ配慮した取り組みもなされている。	17/17
Ⅳ	サービスの質の向上	利用者特性に配慮した分かりやすい掲示物・広報物等の作成や丁寧な接遇によりサービスの向上に努めている。接遇研修を始め，必要な研修の機会も設けられており，スタッフミーティングで研修参加者による報告が行われている。催事案内を近隣の商業施設や児童館，保育所等に持参するなど積極的な広報に努め，潜在的な利用者への働きかけも行っている。	27/27
Ⅴ	施設固有の基準	読書離れが著しいヤングアダルト世代に向けた読書活動推進の取り組みとして，選書アドバイザーとして学生を募り，ともに選書，展示，広報誌づくりを行うなど，積極的な取り組みを継続的に行うとともに，児童の朗読ワークショップや英語絵本の読み聞かせ等を行う「えいごdeおはなし会」を開催するなど，若年層向けの取り組みを積極的に行っている。また，仙台高等専門学校広瀬キャンパスと連携し，夏休みプログラミング工作会や英語多読教室を実施したほか，宮城総合支所保健福祉課と協力し，「認知症フレンドリー」や「自殺対策」に関する資料の展示および啓発パンフレットを配布するなど，外部機関との連携により，地域の特色を生かしながら魅力的な図書館事業を展開している。	18/16

三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂　株式会社）による自己評価》
令和元年度の図書館運営は，年度当初に策定した基本方針と図書館振興計画の施策に基づき，事業計画を着実に実施してきた。 1．基本業務は，図書館の基礎的機能を充実させるとした基本方針に基づき，窓口対応の動線整理やオペレーションの効率化に取り組んだ。このことの成果として，９:３０開館に瑕疵なく対応できたほか，新型コロナウイルス感染症対策にも着実に取り組むことができた。また，宮城総合支所との協力による地域課題の解決を支援する資料展示・啓発コーナーの設置にも新たに取り組むことができた。 2．自主事業は，併設施設や近隣施設との共催・連携事業に継続して取り組んだ。天文台と連携した児童向け天文教室では，12月の開催を意識して「日食」をテーマとするなど，特色ある事業の実施に努め，年間事業参加者数は延べ8,492人に上った。 3．利用実績は，利用者数／日（延べ人数）で2.4人増，貸出冊数／日で84.9冊増，返却冊数／日で77.3冊増といずれも増加した。主たる要因としては，平成30年11月から貸出冊数の上限が10冊に変更されたことが考えられる。前年比で毎月利用が増加する結果となり，年間では貸出冊数，返却冊数とも前年比105%を超えた。 4．職員に対する教育研修は，指定管理者研修，仙台市図書館主催研修，外部研修を併用して実施した。研修報告書の作成と全体会議での報告を通じた研修内容の共有についても継続して実施した。 5．運営の評価は，自己評価や市民図書館による定例監査のほか，第三者評価として「利用者アンケート」を実施した。また，図書館利用者等の意見・評価を得ることを目的に「利用者懇談会」及び「ボランティア懇談会」を開催した。 6．施設管理は，「仙台市公共施設点検要綱」に基づく定期点検を適切に実施した。また，入居施設である広瀬文化センターとの緊密な連絡により効率的な施設管理を行うことができた。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
令和元年度は，宮城総合支所とのタイアップにより，悩みを抱える市民に寄り添う資料の展示や，妊娠期の親や乳幼児の親への読書支援を新たに行うなど，本市が目指す「地域・市民に役立ち，共に成長を続ける図書館」の実現に向けた取り組みを行った。 中高生（ヤングアダルト世代）が読書に親しみやすくなるよう，選書アドバイザーを募集し，中高生による自薦・他薦の読みたい本の選書活動やブックリストづくりなどの活動支援を引き続き行った。さらに，令和元年度は，中高生を対象に本の紹介や本に関する会話を楽しむ読書会を初めて開催するなど支援の拡充を行った。また，英会話教室の外国人講師を招き，子ども向けイベントとして英語絵本の読み聞かせや英語による手遊びなどを行う「えいごdeおはなし会」を開催するなど，国際化社会における英会話教育のニーズを踏まえた特色あるイベントを開催した。 また，引き続き関係機関や地域との連携事業，地元企業と連携した講演会等の自主事業もより一層の充実を図り，地域の特色を生かしながら魅力的な事業を実施し，多くの参加を得ている。仙台高等専門学校広瀬キャンパスとも様々な形で連携を深めており，特に夏休みプログラミング工作会は，小学校の授業で新たにプログラミング授業が導入されたことにより市民の関心が高く，参加者からも高評価が得られた。	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局市民図書館